

小濱勇希シトロエンDS3、グラベル2連戦を制圧!

「グラベルでもガチンコ勝負で勝ち切る」のが今年の目標というJN5クラス小濱勇希/馬場雄一組。SS1は出遅れるも徐々にグラベルSSでペースを上げて、前戦に続く連勝を飾った。



2 018年の全日本ラリー選手権第5戦の舞台は伝統のモンレー。グラベル5連戦の2戦目となった今年の一戦はNEWステージも加わり、装いを一新した印象だ。

とは言っても、昨年、雨と霧が勝負に微妙な

綾を与えたオール舗装10.779kmの「Mineno hara」SSが2本。5.557kmの「Gunmazaka」も半分は舗装でこちらも2本。さらに4.160kmの「Omae Suzaka」も途中からいつもの舗装ステージに合流するなど、舗装区画も決して軽ん

ただ今回のモンレーでは、かつて全日本ダートトライアル選手権も開催されたスポーツランド信州がギャラリーSSとして復活。そして併催された日本スーパーラリーシリーズには6月に公開されたばかりの映画「OVER DRIVE」に“出演”したトヨタ・ヤリスが、そのままの姿で参戦。名門クスクレーシングの炭山裕矢/保井隆宏のコンビによって圧巻の走りを披露する等、話題盛りだくさんの一戦となった。

今季グラベル初戦となった前戦久万高原を新井敏弘選手が制したJN6クラス。オールグラベルのSS1「Azumaya」ではその新井/田中直



JSR / 12.「クルマやエンジンのセッティングが全然違うので正直、日本の道にはちょっとつらいかな。もちろんAPRCで乗ってるシュコダともキャラクターが全然、違う。でも色んなクルマに乗らせて幸せです」(炭山選手)。話題のトヨタ・ヤリスを持ち込んだ炭山裕矢/保井隆宏組が総合優勝。3.2WDクラスは昨年の全日本チャンプ猪股寿洋/伊豆野健太組が優勝。4.ヒストリックシリーズは新垣浩/新垣久美子組のチェリーX1セダンが優勝。



JN5クラス / 5. 林道SSでもベストを奪う速さを見せたGRMNターボの眞貝知志/安藤裕一組は3位でゴール。



6. 横嶋良/木村裕一組は小濱組に最後まで喰らい付くも2位。SS2のミスが悔やまれる。



JN4&JN3クラス / 7.LEG1は2位につけたJN4関根正人／草加浩平組。「晴れればチャンスも」と臨んだLEG2は無情にも雨。順位キープでゴール。8.JN3大倉聡／豊田耕平組はLEG1から順位を上げて2位でゴール。9.JN3は今回も天野智之／井上裕紀子組が快勝。10.JN4は得意のグラベルでリードを築いた上原淳／漆戸あゆみ組がフルポイントマークして前戦のリベンジ達成。11.JN4 香川秀樹／松浦俊朗組は最終SSまで熾烈な2位争いを演じたが、0.8秒差で3位。12.今回はJN3クラスにエントリーした石川昌平／竹藪英樹組はLEG1の4位から3位へジャンプアップ。



JN2&JN1クラス / 13.「スポット参戦の分、色んな所でバクチが打てた。それが当たりました」。JN1は今季初参戦の須藤浩志／新井正和組が優勝。昨年のチャンプの貫禄を見せた。14.LEG2はトップで上がったJN1 古川寛／廣田幸子組だが、LEG1、マシンのトラブルで30秒のペナルティを受け、2位に甘んじた。15.LEG1は加納組を追い詰めたJN2 鎌野賢志／薩山恵組だが、及ばず2位。16.舗装のSS9では驚愕のベストを叩き出した明治慎太郎／北田稔組。SS5のバンクが響いて3位にとどまった。17.JN1の3位にはコンスタントな速さを見せた伊藤隆晃／大高徹也組が入賞。18.19.「優勝できないままやめちゃうのかなと思ったりもしたけど、いざ優勝してみると信じられない気持ちです(笑)」。JN4は加納武彦／横手聡志組が全日本初優勝を飾った。

哉組を鎌田卓麻／市野諒組が1.4秒振り切るベストで首位に立つ。鎌田、新井の2組は舗装が加わったその後のステージでも速さを見せて、コンマ差のホットバトルを展開。SS1の再走となるSS5では新井組が2秒差で鎌田組を下して首位に立つが、オール舗装のSS7「Minenohara」では鎌田組が盛り返して肉薄。この日最後のSSとなった2度目の「Minenohara」でも、各クルー、悪天候に苦しみ中、この2台は異次元のタイムをマーク。結局、この日は新井組が鎌田組に2.1秒差でDAYベストをもち取った。

明けたLEG2では、一部前日からコースを変えて3本逆走で走る「Azumaya」で新井組がベストを連取。鎌田組はSS12「Gunmazaka」でスーパーベストを奪って応戦したが、最終SSの3本めの「Azumaya」でタイヤが激しくなって大きくペースダウン。勝田範彦／石田裕一組にかわされて3位で無念のラリーを終えた。

「今回初めて使ったAzumayaがポイントだと踏んでたんだけど、SS1が自分も抑えたということもあって、思ったほどタイム差がなかったでしょ。どうかなと思ったんだけど、2回めのSS5で踏んだらパッとタイムが出たので、ちょっと気持ちが楽になった。LEG2も逆走とは言え、3回走る道だったからね」とモントレー4連覇を



決めた新井選手は安堵の表情。

「タイヤも使える本数が少なかったんで、セッティング、タイヤの回し方など凄く頭を使った。当たらなかったところもあったけど、そんなには外してない。チーム力とドライバーの経験値が試されるラリーだったと思います」

一方、今季3戦すべてウィナーが入り替わる激戦区JN2クラスはタイヤ使用本数が他のクラスよりもさらに制限されるシビアなクラス。「すべてのタイヤを使い切った」と振り返った加納武彦／横手聡志組が全日本初優勝をあげた。「得意なグラベルのSSでできっちりベストを取

って勝ちたかったんで、その意味では最良のシナリオ通りでした。Minenoharaもタイヤの組み合わせを変えたらコントロールしやすくなって、それほどタイムを落とさずに済んだので、舗装があって良かった」とゴール後は苦笑の加納選手。「チーム皆で走り切るためのセッティングを考え抜いて臨んだので本当に嬉しい。今日、たくさん駆けつけてくれた仲間はもちろん、僕のラリー活動に関わってくれたすべての人に感謝したい」と感激を新たにしていた。

併催の日本スーパーラリーシリーズは炭山組が無事完走を果たし、ヤリスに栄冠を運んだ。